（様式1）　　平成　24　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2894000088		
法人名	株式会社サザンツリー		
事業所名	グループホーム　サザンツリー　（東ユニット）		
所在地	兵庫県姫路市飾西330番地		
自己評価作成日	平成25年1月24日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2894000088-00&PrefCd=28&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　姫路市介護サービス第三者評価機構
所在地	〒670－0955　姫路市安田三丁目1番地　姫路市自治福祉会館6階
訪問調査日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な暮らしの実現と「その人がその人らしく暮らせるホーム」作りを理念に掲げ、開設以来毎食、手作りの食事に拘り、グループホームの特性を最大限に活かしたケアに取り組んでいる。地域の行事に参加したり、ボランティアを招きホームのコンサートを開催し、地域高齢者との交流も深めている。入居者だけでなく家族の心情や入居者との関わりを含めた配慮をし、入居者、家族、ホームの三位一体の有効な関係を築けるよう努力しており、家族からも感謝の言葉を頂いている。東ユニットでは、共同生活の意義を踏まえ、個別ケアと散歩やレクリェーションをし、全員で楽しみながら心身の活性化と健康維持できるようにしている。西ユニットでは入居者一人ひとりの個性、感性を大切にしており、入居者と職員が会話を楽しみながら一緒に調理をする姿がみられる。また地域医療機関や、調剤薬局との連携も増え、連絡を密にするなど力を注ぐことで、多方面からのサービスを提供し、更に入居者、家族が「安心できる暮らし」になるよう支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの立地が静かな住宅街にあり、近隣周囲には自然（夢前川、山、畑、公園、神社等）を残しながら、商業、医療施設等も多くあり暮らしやすい住環境にある。事業所理念「尊厳のある生活・静かに見守る介護・地域と共に生きる・笑顔あふれる家庭的なホーム」を入居者、家族、ホーム（職員）の三位一体で共有して実践されている。特に管理者の認知症ケアへの情熱が職員のチームケアにも繋がっており、家族の理解や評価も高い。入居者の健康管理面でも介護支援専門員が協力医療機関との連携に努められ、往診の体制等も確立されている。職員の勤務体制でも4交代制で夜間の勤務に配慮がされている。東西ユニット間での職員の交換勤務を随時実施して、レポートを作成し相互のケアの状況や改善提案等を検討している。今後も職員のスキルアップの機会として、さらなる取り組み工夫に期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とともに生きる」を理念の一つに掲げ、毎朝唱和する事によりスタッフの意識付けをするとともに現状に甘んじる事なく、日々改善に努め、地域交流の場にはできる限り参加している。	折にふれ、職員間で理念について話をしている。また、管理者からも事あるごとに理念に結び付けて話すため、特に意識しなくても自然に理念の意義が職員の中に入り込んでおり、ケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩により、施設入居者であることは、地域住民に認知されており、挨拶は勿論、季節の野菜、果物、花など頂いたり、、地域の店も頻繁に利用することで地域に馴染んでいる。地域高齢者「なごみの会」との交流も増えている。	地域の特定高齢者の集いの会「なごみの会」と趣味（絵手紙・編み物等）を通じて行き来することによって、地域との交流が増えた。また、雨の日以外はほぼ毎日出かける散歩により、日常的に地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症見守り訪問員の受け入れをし、認知症の理解を深めてもらっている。掲示板や「なごみの会」、近隣の高齢者にホームイベントの案内チラシを配布し参加して頂き交流を深めるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催している。地域の方、入居者、家族、地域包括支援センターを交え現状報告や意見交換を行い、特に地域包括との連携はより強くなってきている。	飾西、町田、2地区の民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族の参加を得て、定期開催されている。在宅の認知症患者の情報を民生委員、地域包括支援センターと共有して、早期治療につなげる支援を一緒に考える機会にもなっている。	運営推進会議の議題がマンネリ化していることから、議題の見直し、参加者の見直しを図っていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿、介護保険課主催の集会にはできる限り、積極的に参加している。 また、介護に関する質問、ホームでの活動や内容変更時など随時連絡や届出し理解を深めて頂いている。	市の担当課に相談を持ちかけるなど、積極的に関わろうとしているが、納得できる回答が得られない。地域包括支援センターとは連携が図れ、良い協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、家族の希望もあり安全の為にも門扉の施錠はしているが、毎日の散歩や喫茶外出など取り入れ心理的拘束感を感じないように、工夫し、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束はしない方針である。玄関は施錠せず、門扉の施錠はしているが、頻繁に外出することによって、閉塞感を解消している。利用者の柔和な表情から身体拘束の弊害がないことがうかがえた。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を定期的に行い、管理者も常に職員とともに学び、何が虐待にあたるか、知識とモラルの徹底に努めており、虐待が行われたことはない。	言葉のトーンについて話し合ったり、虐待の可能性のある事例（グレーゾーン）について研修を実施している。徘徊の対応のコツをつかんで問題解決したり、夜勤者を2名配置するなど虐待防止に努めている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員が研修に行き内部研修や会議で学び理解を深めている。実際に入居者の中で成年後見制度を利用されておられる方についても必要な支援をしている。	現在、成年後見制度を利用している利用者に協力している。ケアマネージャーが研修を受け、職員に伝達研修を行っている。パンフレットを設置し、専門機関につなげる支援ができている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、利用者の入居時の不安や疑問点などを十分に聞き取り、説明し、理解や納得を頂くよう努めている。料金改定については、事前に書面で通知した上で説明して、理解して頂くようにしている。	契約はケアマネージャーが行っている。三位一体のことに重点を置いて説明している。また、身体介護が重度化した場合（常時車椅子の使用が必要、医療介護が必要）、は退所していただくこと、終末期まで看られないことを説明、納得、理解していただいた上で契約している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への思いや意見など評価アンケート調査を実施している。また家族様との交流会を設けるなど日頃からコミュニケーションを緊密にとり意見や要望を気兼ねなく発言できる環境をつくり、それらを運営に反映させている。	アンケート結果を閲覧し、ユニットごとに掲示して、職員全員で共有し、実現に向けて努力している。年1回実施する家族交流会にはほとんどの家族が参加、コミュニケーションを図る場となっており、率直な意見が聞けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度管理者とスタッフ全員が出席する全体会議の実施や、日頃より管理者と職員間で状況報告や問題点、改善策、提案など意見交換できる体制をとり運営に反映するように努めている。	東西ユニットの職員を交換して、自分達で気付いたことを書いてもらう「交換勤務レポート」から意見を引き出す取り組みをしたり、個別面談、自己評価アンケートを利用して聞くなど、意見の出易い環境作りに努めている。職員から、管理者と職員の風通しがいいとの話を聞くことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常的にスタッフの個々の思いや意見など聞きとる場が多い。また随時、個人面談や年1回自己評価シート実施し職場環境、条件、やりがいや想いなどを聞き取り向上心をもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がスキルアップ出来る様、経験年数や適性に応じて外部研修の受講を行っている。会議でも介護研修を頻繁に行ったり、居室担当のモニタリングやセンター方式を取り入れ、プロとしての知識が身につけられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市のグループホーム連絡協議会に出席し、他グループホームとの交流や情報交換を行ったり、電話や相互訪問などを通じて、ネットワークを作り、質の向上に取り組んでいる。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			souda nn		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族に見学して頂き不安や要望など詳細に聞き取りしている。生活歴や経緯などを関係者から収集し、本人が出来るかぎり安心できるようなケアや境つくり、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来て頂き不安や要望などを丁寧に聞き取りし、入居者、家族其々の思いや要望を受容したうえで入居者の気持ちに寄り添いながら本人、家族、ホームの三位一体の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が困っている事や必要とする事を家族や医師、関係者から収集し、家族とも密に相談を重ねながら今、必要な支援を見極め、ニーズに添った対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や食器洗いなど家事を入居者と一緒に行いながら何気ない日常会話の中でも「ともに暮らしている」という気持ちを大切に、感謝の思いを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の記録を読んで頂いたり、必要に応じて説明や相談し、毎月月末には、本人の様子を一筆箋で知らせている。家族との絆を大切に、コミュニケーションを深めるとともに入居者を支援できるように努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との交友関係を継続できるよう電話や手紙、年賀状のやり取りの支援をしている。また知人が尋ねてきやすいような雰囲気、環境を整備したり、馴染みの店や場所への外出の支援も行っている。	家族が頻繁に面会に来る。事業所の近くに馴染みの飲食店やスーパーがあるので、外食や買い物によく出かけている。地域の民生委員だった利用者にはたくさんの方が面会に立ち寄ってくれるなど、支援ができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の相性を把握し、テーブルの席などを配慮し、入居者同士が自然に関わりあえるように工夫している。食事の開始時にはお互いに声かけしてもらうなど様々な場面で入居者同士も支えあう関係を作れるように支援している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は転居先に家族に了解を得て、本人や家族の状況や経過など詳細に情報提供し、退居後にも必要に応じケアマネが転居先を訪問したりその後の経過相談や支援に力を注いでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、入居後も暮らしの要望について情報収集し、毎月のモニタリングやセンター方式を取り入れ、ひとり一人の暮らしの希望に添うよう、カンファレンスを実施し、検討している。	思いを聞き取りにくい方はその場その場の表情やしぐさで察する。また、言葉の端々や機嫌の善し悪しでも判断する。夜勤の時に本音を語られることが多い。聞き取ったことはサービス記録に残し、カンファレンスで検討してケア計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のサマリーを作成しサービスの経過や習慣、生活歴など家族、本人、関係者からも詳細に情報を収集している。情報が希薄な場合はセンター方式を使用しながら聞き出すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々共に暮らしている中で、一人ひとりの生活リズムを把握しながら、その時々の心身状態に合わせ「できること」「興味のあること」を引き出し、状態の把握、維持できるように支援している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	些細な変化や状態を毎朝のカンファレンスで情報共有し、サービス会議、担当スタッフのモニタリングで本人や家族の要望を尋ね意見交換や話し合いをして、状態に即した介護計画を作成するようにしている。	モニタリングは毎月、見直しは3ヶ月に1回実施している。センター方式の結果、申し送りノートの記録、家族の要望の聞き取り、診察の結果等を参考にして実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子を個別にケース記録に記入している。センター方式や申し送りノート、カンファレンスを実施し状態や変化を共有して日々の様子、工夫や気付きを実践や介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の大切な日常生活を基に家族を含めた季節の行事や外出、個別ニーズに合わせた外出を取り入れている。医療機関とも連携を強化し、必要に応じて往診を増やすなど多方面からのサービス強化に取り組んでいる。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、公民館での行事への参加や近隣のスーパー、美容院の利用、ごみネットの回収、地域高齢者サークルとの交流など日々の生活の中で地域に根差した安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により入居前からのかかりつけ医の受診を継続されたり、要望や状態に応じて連携する専門医も提案させて頂いている。どちらも情報提供するなど安心して適切な治療を受けて頂くように支援している。	ケアマネージャーが根気よくそれぞれの病院の地域連携室のソーシャルワーカーと連携を図る努力をし、関係を築き、酒井病院から月1回、八家病院から月2回、厚生病院から月1回、津田歯科は随時の往診が得られ、利用者は適切な医療を受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現時点では看護師は配置していないが、バイタル測定、表情や、様子など些細な変化や状態の把握に努め観察記録としている。スタッフも高齢者の医療知識を学び、医療機関との連携により適切な受診ができるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の症状や日頃の状態を詳細に病院に情報提供し、病院関係者、医師や家族との連絡、相談を密に行い、治療に専念でき、なるべく早期に退院できるよう、常日頃、医療機関関係者との連携強化に努めている。	転倒等、緊急の場合は協力病院を紹介し、連携をとっている。退院時のカンファレンスに参加し、退院後のケアに関する情報を得ている。往診の医師と入院時の主治医が同じの場合がほとんどであることから、連携がとりやすい。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から入居者の状態を家族に報告しているが重度化が予想される早い段階から家族や本人、スタッフで支援や対応についての話し合いをするようにしている。ホームで出来ることを丁寧に説明し理解して頂き、地域関係者と連携し、家族の希望に出来るだけ沿った支援をしている。	看とりはしない方針である。家族等には、グループホーム本来の姿を維持するためにという説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生に備えて、緊急マニュアルを作成し心肺蘇生や初期対応など社内研修訓練を定期的に実施し、実践力を身に付けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜あらゆる状況想定での避難訓練を実施し、全スタッフが、実践力を身に付けられるようにしている。今後も迅速に対応できるよう体制を整えたい。	さまざまな災害を想定して、避難訓練を実施している。設備も充実しており、通報連絡体制も整っている。	備蓄物品（水･食料品）を整備していただきたい。

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一つの家庭のように暮らす時間や環境を保ちながら、理念の一つでもある「尊厳のある暮らし」を心がけ、常に人格を尊重し、一人ひとりの認知症状や状態に合わせた対応をしている。	言葉使いに気をつけている。馴れ馴れしい言葉使い、くだけた言い方はしないなど。つい命令口調になってしまうことがあるが、職員同士で注意しあっている。家族目線を考えながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	笑顔でゆっくりと本人が話しやすい言葉がけをしたり、ゆったりと楽しい雰囲気をつくるように努めている。また表出しにくい方に対しては表情や動作でもくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の散歩など日課はあるが、入居者一人ひとりの体調やその時の気持ちを見極め、尋ねるなどし、その日、その時間の過ごし方のペースに合わせるように、出来るだけ希望に沿う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを尋ね、馴染みの美容院に同行したり、一緒に洋服を選んだり、会話をしながら整髪していただくなど、その人らしいお洒落を楽しんで頂けるように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力に応じて、スタッフと一緒に楽しい会話をしながら食事準備や片付けをして頂いている。好みや旬の食材を献立に取り入れたり、時には全員で外食する機会を持つなど食事が楽しみになるような支援をしている。	入居者が調理や盛り付け、配膳等に職員と共に参加をして、又片付けも積極的にされている。食事の前後には入居者の当番が「いただきます」「ごちそうさまでした」を言って和やかに職員と食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好き嫌いや力を把握し、その時の体調や状態に合わせ、栄養バランスのよい献立を考えている。食事量、水分量を記録し健康管理には配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には入居者の口腔状態やその方の力に合わせたケアを支援している。 義歯の方には週2回夜間の消毒をして清潔を保つようにしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを使用しておられる方についても出来るだけトイレで排泄して頂く様に時間を見計らいながら、そっと声かけし、付添い、出来るだけ自立に向けた支援をしている。	かなりの入居者が紙パンツやパットを利用されているが、排泄パターンにより個別にトイレ誘導に努めている。プライバシーへの配慮はそっと声かけする等を徹底している。トイレは各ユニットとも3ヵ所設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食事と毎日の散歩や運動量などを個々のＡＤＬに合わせて行っている。排便のチエックを行い、乳製品や果物なども状態に応じて提供し、加えて服薬のある方は調整をし、体調管理に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スムーズに入浴して頂けるよう声かけのタイミングや話題に配慮している。入浴中は本人の思いや希望を聞いたり昔話などをしながら和やかな雰囲気になるよう工夫している。	入浴は毎日午後から利用できる。（日曜日以外）入浴を嫌がる入居者にはスムーズに入浴して頂けるよう声かけのタイミングや話題に配慮している。プライバシーへの配慮では同性介助に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の生活習慣を崩さない様、配慮している。其々、リビングや居室でテレビを観て寛がれたり、ゆったりと安心して休める環境を作り安眠や休息の確に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの服薬の目的や副作用を理解し、注意深く症状を観るようにしている。特に変薬があった場合は体調や表情など些細な変化についても観察し、主治医や家族に相談、報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意なことや楽しいと感じられる事を取り入れ、張り合いと笑顔がある生活の支援に力を注ぎ、気分転換や個々の希望に添った外出などの支援をしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日の日課となっている。また個々の希望により遠出や買い物など戸外へ出掛けることも多く、喫茶外出や外食などの機会も設け楽しまれている。また家族との外出、外食などもして頂いている。	天候の良い日は、毎日散歩を日課として近隣の公園や神社等にも出かけている。喫茶や食事外出でも支援している。希望があれば普段行けない場所でも家族と相談して支援している。また、家族が本人を連れて外食等、外出されることもある。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理出来る方については、一定の金額を所持されている方もあり、外出時、ご自分で支払をされる時は、見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で家族に用事がある時は携帯電話を使って電話をかけられたり、知人からの電話や手紙を取り継いだり、見守りをしている。その入居者に応じて、これまでの関係が継続できるように配慮している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に消毒も心がけている。スタッフと一緒にレクレェーションで作成した季節ごとの作品や毎月のカレンダーなどを展示している。寛げるようＢＧＭを流したり、季節の花を生け、心地よい空間を作るようにしている。	家庭的ホームでの配慮が随所に見られる。開放的な台所では食事の準備や調理の様子が五感刺激にもなっている。中庭には大きなくすの木や季節の花も見られ、ホーム内の随所にも生け花がみられる。各ユニットにはトイレが3ヵ所あり落ち着いて利用できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには椅子や少人数で寛げるソファを配置し、テレビや本等も椅子の側に置き、自由に、思い思いに過ごせるような空間作りを工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた馴染みのある小物や家具、家族との写真などを置き、家族と相談し工夫して頂いている。レクレェーションで作成した手作りの作品を飾ったりその入居者らしい心地よい居室になるように支援している。	居室は安全快適（清潔）に配慮しながら、その人らしい暮らしができるように支援している。入居者によって使い慣れた物や飾り物等は違うが、本人が居心地よく過ごせるように工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	其々一人ひとりの、出来ることや分かることを理解し、ドア前に好みののれんを掛け居室を分かりやすくするなど工夫し、出来ることを活かし、安全で自立に向けた支援に努めている。		